

JIS

プラスチックフィルム及びシート—
自由落下のダート法による衝撃試験方法—
第1部：ステアケース法

JIS K 7124-1 : 1999

(ISO 7765-1 : 1988)

平成 11 年 10 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。これによってJIS K 7124は廃止され、この規格に置き換えられる。

今回の制定では、国際一致規格との対応を図るため、ISO 7765-1 : 1988を基礎として用いた。

JIS K 7124は、一般名称を“プラスチックフィルム及びシート—自由落下のダート法による衝撃試験方法”として、次の各部によって構成する。

第1部：ステアケース法

第2部：計装貫通法

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：平成 11. 10. 20

官 報 公 示：平成 11. 10. 20

原案作成協力者：日本プラスチック工業連盟

審 議 部 会：日本工業標準調査会 化学部会（部会長 三田 達）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部標準業務課 産業基盤標準化推進室（☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

プラスチックフィルム及びシート— K 7124-1 : 1999

自由落下のダート法による (ISO 7765-1 : 1988)

衝撃試験方法—

第1部：ステアケース法

Plastics film and sheeting—Determination of impact
resistance by the free-falling dart method—
Part 1 : Staircase methods

序文 この規格は、1988年第1版として発行されたISO 7765-1, Plastics film and sheeting—Determination of impact resistance by the free-falling dart method—Part 1 : Staircase methodsを翻訳し、技術的内容及び規格票の様式を変更することなく作成した日本工業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

1. 適用範囲

1.1 この規格は、厚さ1 mm以下のプラスチックフィルム及びシートの一定条件下における50 %破壊の高さからエネルギーを求める、自由落下のダート衝撃試験方法について規定する。

1.2 2種類の試験方法を、規定する。

1.2.1 A法は、直径38 mm±1 mmの半球状の頭部をもつダートを用い、高さ0.66 m±0.01 mから落下させる。この方法は、衝撃の破壊質量が約0.05 kg～約2 kgの材料に適用する。

1.2.2 B法は、直径50 mm±1 mmの半球状の頭部をもつダートを用い、高さ1.50 m±0.01 mから落下させる。この方法は、衝撃の破壊質量が約0.3 kg～約2 kgの材料に適用する。

1.3 測定手法はステアケース法による。試験には質量が一定の弾頭質量を用い、各試験片の試験結果(破壊又は非破壊)によって、一定の分銅を段階的に増加又は減少させる。

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの規格のうちで、発行年を付記してあるものは、記載の年の版だけがこの規格の規定を構成するものであって、その後の改正版・追補には適用しない。

ISO 291 : 1977 Plastics—Standard atmospheres for conditioning and testing

ISO 4591 : 1979 Plastics—Film and sheeting—Determination of average thickness of a sample and average thickness and yield of roll, by gravimetric techniques(gravimetric thickness)

ISO 4593 : 1979 Plastics—Film and sheeting—Determination of thickness by mechanical scanning

3. 意義

3.1 方法A及び方法Bは規定条件下で、試験片(数)の50 %が破壊されるダートの質量を求めるために用いられる。一方の方法で求められたデータは、他の方法で求められたデータと直接比較することはできないし、また、弾頭(ミサイ